

ルカ 2 : 21-38

「イエスに関する証」

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。 2:22 さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。 2:23 ——それは、主の律法に「母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばれなければならない」と書いてあるとおりであった—— 2:24 また、主の律法に「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定められたところから従って犠牲をささげるためであった。 2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。 2:26 また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。 2:27 彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れて両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た。 2:28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。 2:29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。 2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。 2:31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、 2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」 2:33 父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。 2:34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。 2:35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」 2:36 また、アセル族のパヌエルの娘で女預言者のアンナという人がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代のあと七年間、夫とともに住み、 2:37 その後やもめになり、八十四歳になっていた。そして宮を離れず、夜も昼も、断食と祈りをもって神に仕えていた。 2:38 ちょうどこのとき、彼女もそこにいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。

はじめに

今年、私たちは通常クリスマスと関連して語られることのない話を取り上げて学んできました。旧約聖書のクリスマスに関する預言、ザカリヤとエリサベツとバプテスマのヨハネ、そして今週は、シメオンとアンナについて学びます。

このすべてがイエスの生誕に関わりがあります。

シメオンとアンナの話、そしてイエスの割礼と命名の話は、ユダヤ人の文化や律法において非常に重要なできごとです。

今日は、3つの部分に分けてお話ししましょう。

1. イエスの割礼と命名 (21-24 節)
2. シメオンによるイエスに関する証言 (25-35 節)
3. アンナによるイエスに関する証 (36-38 節)

1. イエスの割礼と命名 (ルカ 2 : 21-24)

イエスがお生まれになった後、マリヤとヨセフはいくつかのユダヤの律法に従って行動しなければなりません。

また、律法で定められた行事に加え、子どもの名前も考えなければなりません。

レビ記 12 : 1-8

12:1 それから、【主】はモーセに告げて仰せられた。 12:2 「イスラエル人に告げて言え。女が身重になり、男の子を産んだときは、その女は七日の間汚れる。その女は月のさわりの不浄の期間のように、汚れる。 12:3 ——八日目には、その子の包皮の肉に割礼をしなければならぬ—— 12:4 その女はさらに三十三日間、血のきよめのために、こもらなければならない。そのきよめの期間が満ちるまでは、聖なるものにいっさい触れてはならない。また聖所に入ってもならない。 12:5 もし、女の子を産めば、月のさわりのときと同じく、二週間汚れる。

その女はさらに六十六日間、血のきよめのために、こもらなければならない。12:6 彼女のきよめの期間が満ちたなら、それが息子の場合であっても、娘の場合であっても、その女は全焼のいけにえとして一歳の子羊を一頭と、罪のためのいけにえとして家鳩のひなか、山鳩を一羽、会見の天幕の入口にいる祭司のところに持って来なければならない。12:7 祭司はこれを【主】の前にささげ、彼女のために贖いをしなさい。彼女はその出血からきよめられる。これが男の子でも、女の子でも、子を産む女についてのおしえである。12:8 しかし、もし彼女が羊を買う余裕がなければ、二羽の山鳩か、二羽の家鳩のひなを取り、一羽は全焼のいけにえとし、もう一羽は罪のためのいけにえとしなさい。祭司は彼女のために贖いをする。彼女はきよめられる。」

出エジプト記 13 : 1-6

13:1 【主】はモーセに告げて仰せられた。13:2 「イスラエル人の中で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである。」13:3 モーセは民に言った。「奴隷の家であるエジプトから出て来たこの日を覚えていなさい。【主】が力強い御手で、あなたがたをそこから連れ出されたからである。種を入れたパンを食べてはならない。13:4 アビブの月のこの日にあなたがたは出発する。13:5 【主】があなたに与えるとあなたの先祖たちに誓われたカナン人、ヘテ人、エモリ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地に、あなたを連れて行かれるとき、次の儀式をこの月に守りなさい。13:6 七日間、あなたは種を入れないパンを食べなければならない。七日目は【主】への祭りである。13:7 種を入れないパンを七日間、食べなければならない。あなたのところに種を入れたパンがあってはならない。あなたの領土のどこにおいても、あなたのところにパン種があってはならない。13:8 その日、あなたは息子に説明して、『これは、私がエジプトから出て来たとき、【主】が私にしてくださったことのためなのだ』と言いなさい。13:9 これをあなたの手の上のしるしとし、またあなたの額の上の記念としなさい。それは【主】のおしえがあなたの口にあるためであり、【主】が力強い御手で、あなたをエジプトから連れ出されたからである。13:10 あなたはこのおきてを年々その定められた時に守りなさい。13:11 【主】が、あなたとあなたの先祖たちに誓われたとおりに、あなたをカナン人の地に導き、そこをあなたに賜るとき、13:12 すべて最初に生まれる者を、【主】のものとしてささげなさい。あなたの家畜から生まれる初子もみな、雄は【主】のものである。13:13 ただし、ろばの初子はみな、羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたの子どもたちのうち、男の初子はみな、贖わなければならない。13:14 後になってあなたの子があなたに尋ねて、『これは、どういうことですか』と言うときは、彼に言いなさい。『【主】は力強い御手によって、私たちを奴隷の家、エジプトから連れ出された。13:15 パロが私たちを、なかなか行かせなかったとき、【主】はエジプトの地の初子を、人の初子をはじめ家畜の初子に至るまで、みな殺された。それで、私は初めに生まれる雄をみな、いけにえとして、【主】にささげ、私の子どもたちの初子をみな、私は贖うのだ。』13:16 これを手の上のしるしとし、また、あなたの額の上の記章としなさい。それは【主】が力強い御手によって、私たちをエジプトから連れ出されたからである。」

マリヤとヨセフは、以下のとおりユダヤの律法に従いました。

- a) 子の割礼— これは、神がご自身の民に与えられた「契約」のしるしでした。
- b) マリヤの産後のきよめ
- c) 長男を神にささげる
- d) 動物のいけにえによる子の贖い— 贖いとは、買い戻すという意味です。

マリヤとヨセフはその子をイエスと名付けました。

その名は、「神は救い」という意味です。

マリヤとヨセフはすべて、神のみことばに従って行動しました。

適用

この箇所から私たちが学べることは明白です。

イエスを神にささげることと贖いは、エジプトで奴隷だったユダヤ民族を神が救われたその力強い御手の業を覚えるためです。

出エジプト 13 : 14 は、次のように語ります。「後になってあなたの子があなたに尋ねて、『これは、どういうことですか』と言うときは、彼に言いなさい。『【主】は力強い御手によって、私たちを奴隷の家、エジプトから連れ出された。』」

パロが心をかたくなにしたので、エジプトのすべての長男および家畜の雄の初子が死んでしまいました。これは、神の民を奴隷生活から救い出すためでした。

この世に生まれる人は皆、罪の奴隷として生まれてきます。

人間は、罪の問題から救われなければなりません。

神は、最初のクリスマスに、ご自身の御子イエスを遣わされました。それは、すべての人間を罪の束縛から救い出すためです。

私たちを罪の束縛から救い出すために、神は大きな犠牲を払われました。

その犠牲とは、神の御子イエス・キリストの死です。

イエスは、私たちの「贖いの代価」なのです。

マリヤとヨセフは、彼らの息子イエスを買戻さなければならませんでした。そのために支払ったのは、二羽の鳥です。彼らは貧しかったので、羊を飼うことができなかつたからです。私たちにとって、「贖い」の教えはとても大切です。これをしっかり理解しておかなければなりません。

イエスが私たちの罪のために十字架上でなしてくださった御業を私たちが信じると、神は罪の奴隷である私たちを買戻すことができるようになります。こうして、私たちは神の子のひとりとなるのです。

この贖いは、キリストにおける私たちの立場を確かなものとしします。

私たちは、罪と死の律法から完全に解放されます。

そして、イエス・キリストにある新しい人生を生きる自由を得ます。

イスラエルの民がエジプトでの奴隷生活から解放されたように、私たちも聖霊の助けをいただき、神のために生きる自由を得ます。

エペソ 1 : 5-8

1:5 神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。 1:6 それは、神がその愛する方であって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。 1:7 この方であって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。 1:8 この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、

2. シメオンによるイエスに関する証言 (25-35 節)

ユダヤ人社会では、証言は必ず他の証人によって確認されなければならないというのが法的な基本原則でした。

これはモーセの律法の一部で、申命記 19 : 15 に明言されています。

19:15 どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。

神がイエスという名の赤ちゃんの姿になって生身の人間になられたという発言は、驚くべきものです。

ルカは、シメオンとアンナの証言を含むことで、この驚くべき出来事が実際に起こった事実であり、信憑性があると立証しました。

ルカは、イエスのご降誕の描写を完全なものにすることを望みました。それで、ユダヤ人の考え方では、マリヤとヨセフ以外に少なくともふたりの人物による証言が必要だと考えました。

ルカがイエスの生誕についてこれほど詳しく記したのは、そういう理由です。

ルカ 1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

今日の聖書箇所から、シメオンについて5つのことがわかります。その人物像は、彼が世の救い主イエス・キリストのご降誕の証人としてふさわしいことを示します。

1. シメオンの性質 (25 節前半)

シメオンは、救い主に関する旧約聖書の預言を信じる少数派のひとりでした。その少数派の人々は、神殿での礼拝を欠かさず、神に献身していました。聖書には、シメオンが「正しい、敬虔な人」だったとあります。この「正しい」と訳された単語は、「義なる」という意味です。それは、信仰によってシメオンには「義」が与えられていたということです。イエスが十字架で私たちの罪のために死なれる前、人はどのようにして神の前に義とされたのでしょうか。それを知るために、創世記 15 章を読みましょう。

創世記 15 : 1-6

15:1 これらの出来事後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」 15:2 そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」 15:3 さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さないで、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう」と申し上げた。 15:4 すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」 15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 15:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

アブラハムをはじめ、信仰によって神を信じた旧約聖書の登場人物たちは皆、信仰をとおして神によって義とされました。

ローマ 1 : 16-17

1:16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。 1:17 なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

シメオンの性質に関するふたつめの説明は、彼が「敬虔な人」だったということです。これはギリシヤ語で「エウラベス」という単語で、ルカの福音書にのみ登場します。この単語は、神に畏敬の念を持つ人々を表します。神をたたえ、神に従うことに心を注ぎ、その結果、人の前にも模範的な生き方をするという姿です。ルカが用いたふたつの単語から、シメオンが非常に信頼できるイエスの証人だったことが明らかになります。彼は、神の前に義とされ、きよめられた人でした。

適用

ある著名な神学者は言いました。「神に義とされた人は、神にきよめられる。」その意味は、人が本当に新生して神に義とされたなら、神の聖霊がその人の人生に働きをつづけられ、聖霊によって聖別されるということです。

皆さんも神の子であるなら、神の聖霊は常に皆さんの人生に働いておられます。私自身、ここ OIC に牧師として赴任してからの 3 年間で、あらゆる意味で成長しました。それは、聖霊の助けによるものです。また、OIC にいる神の子である皆さんの愛と支えのおかげです。

皆さんも成長したと言えることを願います。

私たちは常に、神のみことばの恵みと知識において成長中でなければなりません。神が助けてくださって、2018 年、私たち全員が成長していけますように。

2. シメオンの神学 (25 節後半)

25 節の後半には、シメオンが、「イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。」とあります。

ここでルカが使っているギリシャ語の単語は、聖霊を指すのと同じ単語です。

「パラクレシス」という単語で、慰めや励ましという意味です。

シメオンは、個人的にも国民全体のためにも、神の民が救われるのを長年待ち望んでいた老人です。

彼は、神の民のことを深く心にかけていました。そして、神がアブラハムに語られ、ダビデをとおして確かなものとされた約束を信じていました。

シメオンは、神の民がローマ帝国の支配から解放されるのを望んでいただけではありません。彼はエレミヤ 31 : 31-34 に記された「新しい契約」を認識していたはずでした。

31:31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。 31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ—— 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 31:34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

それは、罪の赦し、きよい心、そして聖霊の内住の約束でした。

シメオンの神学は、旧約聖書の約束と合致していました。その約束とは、神が来たるべき救い主をとおしてご自身の民を慰めてくださるというものでした。

シメオンは、適切な証人ということになります。

3. シメオンの油注ぎ (25-27 節)

25-27 節には、シメオンと関連して聖霊という言葉が 3 度登場します。

聖霊がシメオンの上にとどまっておられた、聖霊が彼に告げておられたことがあった、そして、聖霊に導かれた、という内容です。

生活全般にわたって、シメオンは聖霊の導きを受けていました。

4. シメオンの宣言 (28-33 節)

シメオンは、赤ちゃんのイエスを腕に抱いて、神をたたえました。ここで、イエスを祝福したのではないことに注目してください。それは、イエスご自身が祝福とされる存在だからです。

シメオンは、イエスがこの世に与えられたことを神に感謝していたのです。

シメオンの賛美は、「ヌンク・ディミティス」と呼ばれています。これはラテン語の言葉です。

シメオンがここで語ったことを要約すると、旧約聖書の預言に詳しく記されていたすべての預言を成就する救い主を見たので、もう思い残すことはないということです。

預言には、ユダヤ人ではない私たちのような異邦人の救いも含まれています。
シメオンは、イエスの本当の正体について証言しました。

5. シメオンの警告 (34-35 節)

シメオンは賛美をささげた後、突然警告を語ります。
マリヤとヨセフに対して、4つの警告を与えました。
まず、イエスが人の運命を決めると言いました。
異邦人が信徒になり、それによってつまずくユダヤ人が出てきます。
次に、イエスの働きに対する抵抗が起こります。
多くのユダヤ人は、イエスに反対し、拒絶し、正反対のことを言います。
これらのことはすべて、イエスを信じなかったユダヤ人がイエスにしたことを正確に表現しています。
3つめは、マリヤの心を剣が刺し貫くというものでした。
おそらくマリヤは何度もそのような経験をしたでしょう。中でも一番つらかったのは、十字架の下でわが子の姿を見上げたときでしょう。
最後に、多くの人の思いがイエスによって現れるとあります。
福音書には、イエスが人の思いや過去の罪、経験を知っておられることを明らかにされた場面がたくさん記録されています。
その典型的な例は、ヨハネ 4 章にある井戸端の女の話です。

ヨハネ 4:29 「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」

3. アンナによるイエスに関する証 (36-38 節)

最後に、アンナによるイエスに関する証です。
アンナは 84 歳になる未亡人でした。
彼女は、断食と祈りをもって神に仕えていました。
アンナは、聖書に登場する女預言者のひとりです。
女預言者には、ミリアム (出エジプト 15 : 20)、デボラ (士師記 4 : 4)、フルダ (列王記第二 22 : 14)、ノアデヤ (ネヘミヤ 6 : 14)、イザヤの妻、そして使徒 21 : 8-9 に登場するピリポの娘たちなどがいます。
アンナは、ちょうどよい時に適切な場所に居合わせて、このすべての出来事を目撃することができました。
アンナはイスラエルの贖いについて、興味を持った人すべてに語って聞かせました。
この年老いた女性の生き方から、私たちは大きな課題を与えられます。

適用

今日の個所から多くのことを学べますが、時間の関係で、一番重要なものに絞りたいと思います。
ここで一番大切な教えは、私たちが 2018 年にイエス・キリストの良い証人となることです。
明日から新年が始まります。
この新しい始まりの時に、多くの人は家族や親類と新年を祝うでしょう。
明日から、イエス・キリストの良い証人として歩み始めることができます。
シメオンからは、神の聖霊と歩調を合わせて生きることを学びました。新しい一年、そしてこれから一生、私のように年がいてもそのように歩み続けましょう。
シメオンは聖霊に満たされ、導かれ、聖霊によってあらゆることを示されました。
年老いてもなお、忠実に神に仕え続けました。

詩編 92 : 12-15

92:12 正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。 92:13 彼らは、【主】の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えます。 92:14 彼らは年老いてもなお、実

を实らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。92:15 こうして彼らは、【主】の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。

なぜ聖霊に満たされ続けなさいと聖書は教えるのですか、と質問されたことがあります。

その答えは、「漏れるから」です。

私たちは聖霊に満たされると、聖霊に導かれます。その生き方は、イエスの良い証となります。けれども私たちは、何かうまくいかなかったり、神のみこころに反する言動をしてしまったりすることがあります。

そんなとき、私たちは神にごめんなさいと言って、やり直さなければなりません。

そういうときに、聖霊の新たな満たしを神に求めなければならないのです。

神の聖霊は私たちを決して離れませんが、私たちを支配していない状態のときもあります。

私を含み、私たち全員に与えられた課題は、聖霊に人生をゆだねることです。

私たちの言動のすべてを聖霊に支配していただくことです。

そうすれば、私たちはイエスの良い証人となれるでしょう。

もうひとつ、アンナから学べるがあります。

アンナは、断食して祈りました。

断食して祈るのは簡単なことではありません。しかし、神に栄光をもたらすことです。そして、イエスに関する私たちの証を役立つものとしてくれます。

2018年、私たちの断食と祈りを神が導いてくださいますように。